

# 新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の在り方の研究 —「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善を通じて—

愛知県立東浦高等学校長 蟹江 吉弘

## 1 研究のねらい及び方法

令和4年度から年次進行で実施される新しい学習指導要領では、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が重視されている。学校には、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じて、「生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性」等の新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実が求められている。

地理歴史科、公民科では「地理総合」「歴史総合」「公共」の必修科目と、そこで学んだ資質・能力を生かして、より広く深く探究する「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「倫理」「政治・経済」の選択科目が設定された。我々は改訂された科目の目標や内容を理解し、育成すべき資質・能力を明確化して日々の学習指導に精励するとともに、現行の学習指導要領でも課題とされてきた「主体的に社会の形成に参画しようとする態度の育成」「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成」「課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業の充実」について一層取り組まなければならない。

本研究班では、昨年度までの研究を更に発展させ、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の在り方を追究するために、①思考を活性化させる発問の工夫 ②選択・判断の基準となる効果的な資料の提示 ③獲得した力の「見える化」と自己評価の手法の検討の3点について研究した。

研究方法としては、各研究員が作成した授業構成案を、実際の授業等で使いやすいものとするために協議を重ねた。協議は研究員の授業担当科目を考慮して、地理歴史と公民の2グループに分かれて行った。

## 2 研究経過 (場所はすべて愛知県総合教育センター)

- |     |                  |                 |
|-----|------------------|-----------------|
| 第1回 | 令和元年 7月 2日 (火)   | 研究方針の確認、実践計画の協議 |
| 第2回 | 令和元年 8月 26日 (月)  | 実践内容の検討         |
| 第3回 | 令和元年 10月 29日 (火) | 実践結果の報告、実践内容の検討 |
| 第4回 | 令和元年 11月 25日 (月) | 実践結果の報告、実践内容の検討 |
| 第5回 | 令和2年 1月 29日 (水)  | 研究のまとめ          |

## 3 まとめ

本研究では、生徒に身に付けさせたい力を明確化した上で、効果的な発問と資料の提示に主眼をおいた授業構成案を作成し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して協議を重ねた。

良質の問いは、生徒の中に新たな問いを生み出し、生徒自らが問いを立てて探究を始めるきっかけとなる。また効果的な資料提示は、正しい思考力、判断力の育成の大きな助けとなる。生徒には、正解が一つとは限らない問いに対しても、資料や情報を多面的・多角的に考察し、仲間との議論等を通じて、「自分たちの解(納得解)」を導き出す力を育成したい。我々教師が、生徒の脳がフル回転するような「深い学び」のある授業を展開できたなら、予測困難な社会の変化に、主体的にしなやかに対応し、心豊かな人生を切り拓く力をもった若者を育成することができるだろう。ここに掲載した資料を、それぞれの学校の実情に応じてアレンジして利用し、授業改善のヒントとして役立てていただければ幸いである。

研究員一同、このような研究協議の機会を与えていただいたことを深く感謝し、今後とも一層研鑽に励む所存である。